

# 平成30年12月期第3四半期 決算説明資料

株式会社sMedio

(東証マザーズ：証券コード3913)

<http://www.smedio.co.jp/>

平成30年11月12日（月）

本資料の無断複写、無断転用はしないで下さい

本資料の要因分析は、当社が適切と考える方法で実施している点、ご理解下さい。



Copyright© sMedio, Inc. All rights reserved.



1.	連結業績概要	…P3
2.	連結決算概要 (BS)	…P4
3.	形態別連結売上高推移(前年同期比)	…P5
4.	連結売上高増減要因(計画比)	…P6
5.	連結営業利益・連結経常利益推移(前年同期比)	…P7
6.	連結営業利益増減要因(計画比)	…P8
7.	研究開発費推移	…P9
8.	通貨別預金残高	…P10
9.	通期業績予想	…P11
10.	本資料の取扱いについて	…P12

本資料中の数値は、単位未満切捨てで表記しております。  
なお、端数処理の影響で、各表の項目の合計と合計欄が一致していない場合があります。

# 1. 平成30年12月期第3四半期 連結業績概要

単位:百万円未満切捨て

	平成28年 1-9月期	平成29年 1-9月期	平成30年 1-9月期	前年同期比	
売上高	1,036	837	779	△58	△6.9%
売上原価	451	400	406	5	1.4%
売上原価率	43.6%	47.8%	52.1%	4.3%p	
売上総利益	584	436	373	△63	△14.6%
販管費	353	434	418	△16	△3.8%
営業利益	230	1	△45	△47	△2496.3%
営業利益率	22.3%	0.2%	△5.8%	△6.1%p	
営業外収益	2	1	5	3	179.9%
営業外費用	176	2	1	△1	△57.6%
経常利益	57	1	△41	△42	△3266.8%
特別利益	—	—	—	—	
特別損失	—	4	0	△4	△98.4%
税金等調整前四半期純利益	57	△3	△41	△37	
法人税等	33	30	0	△30	△99.7%
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—	—	—	
親会社株主に帰属する四半期純利益	24	△34	△41	△7	

(売上高) 当社ソフトウェア搭載機器の出荷台数が前年同期を下回ったことや子会社での前年同期の開発案件の反動減で58百万円の減収となった。

(売上原価) 初期開発での開発工数が想定を上回った案件が発生し、原価がかさんだ。

(営業利益・経常利益・最終利益) 売上総利益の落ち込みにより、赤字となった。

## 2. 平成30年12月期第3四半期 連結決算概要 (BS)

単位: 百万円未満切捨て

資産	平成28年 12月末	平成29年 12月末	平成30年 9月末	前期末比
現金及び預金	1,364	1,218	1,149	△69
売掛金	78	57	70	12
棚卸資産	379	245	172	△72
その他	51	34	50	15
流動資産合計	1,874	1,556	1,443	△113
有形固定資産	18	23	22	△0
ソフトウェア	57	39	27	△12
のれん	185	117	93	△24
その他	2	1	1	△0
無形固定資産合計	245	158	121	△36
投資その他資産	27	27	28	1
固定資産合計	291	209	172	△36
資産合計	2,166	1,766	1,616	△149

負債・純資産	平成28年 12月末	平成29年 12月末	平成30年 9月末	前期末比
買掛金	33	28	31	2
短期借入金	133	125	124	△0
未払法人税等	7	27	10	△17
預り金	9	82	7	△74
賞与引当金	1	2	10	8
その他	59	66	141	74
流動負債合計	245	333	326	△7
長期借入金	249	124	30	△93
その他	18	13	11	△0
固定負債合計	268	138	42	△95
資本金・資本剰余金	1,163	1,174	1,174	—
利益剰余金	471	329	287	△41
自己株式	△0	△227	△227	—
その他	18	17	11	△5
純資産合計	1,652	1,294	1,247	△47
負債・純資産合計	2,166	1,766	1,616	△150

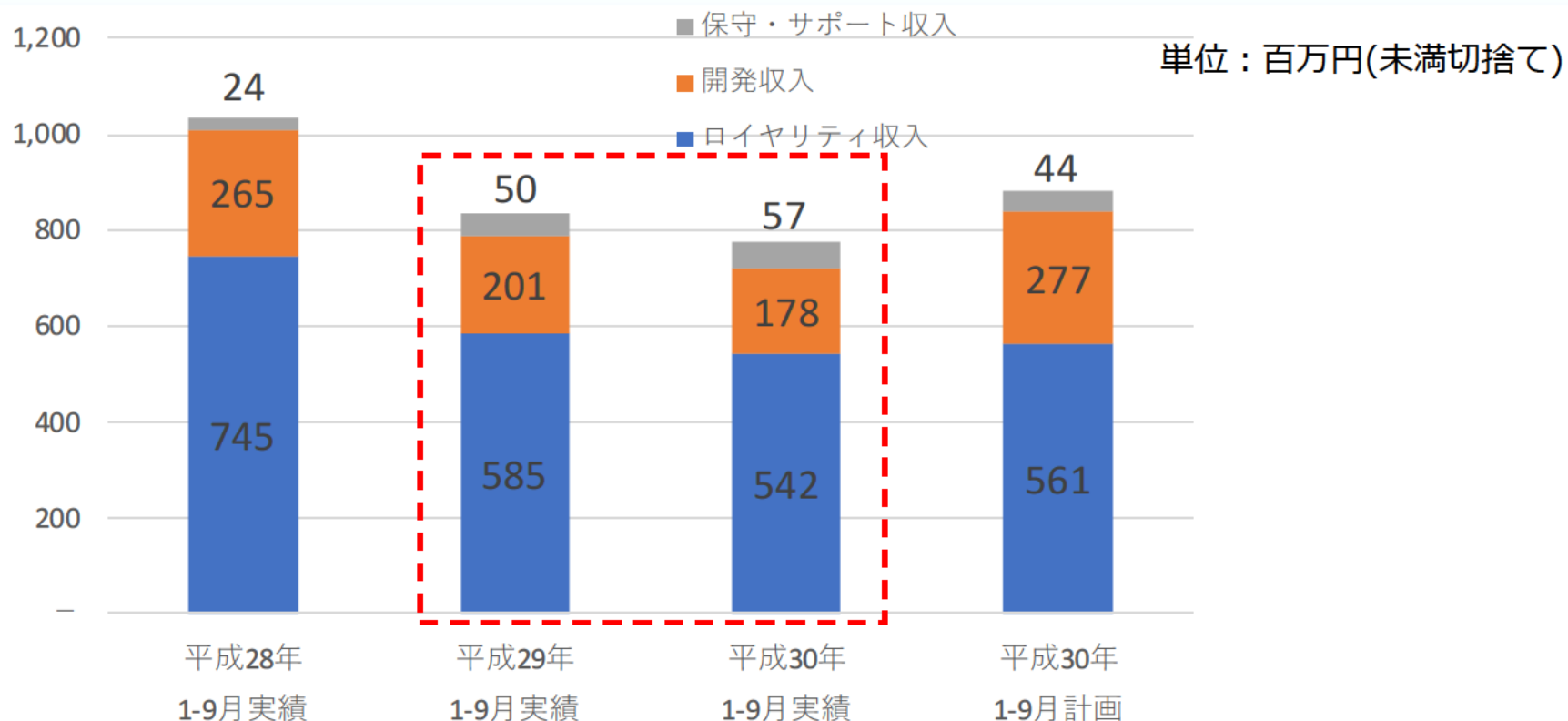
### (資産)

- 棚卸資産は、前払いしたロイヤリティの払い出しによる減少105百万円や仕掛品の増加33百万円等で、72百万円減少した。
- 現金及び預金は、米国の子会社での預り金を返却したこと等で69百万円減少した。

### (負債)

- 約定返済により、長短合わせて借入金が93百万円減少した。
- 海外子会社での預り金を返したことで、預り金が74百万円減少した。

### 3. 形態別連結売上高推移（前年同期比）



連結売上高合計	1,036	837	779	882
---------	-------	-----	-----	-----

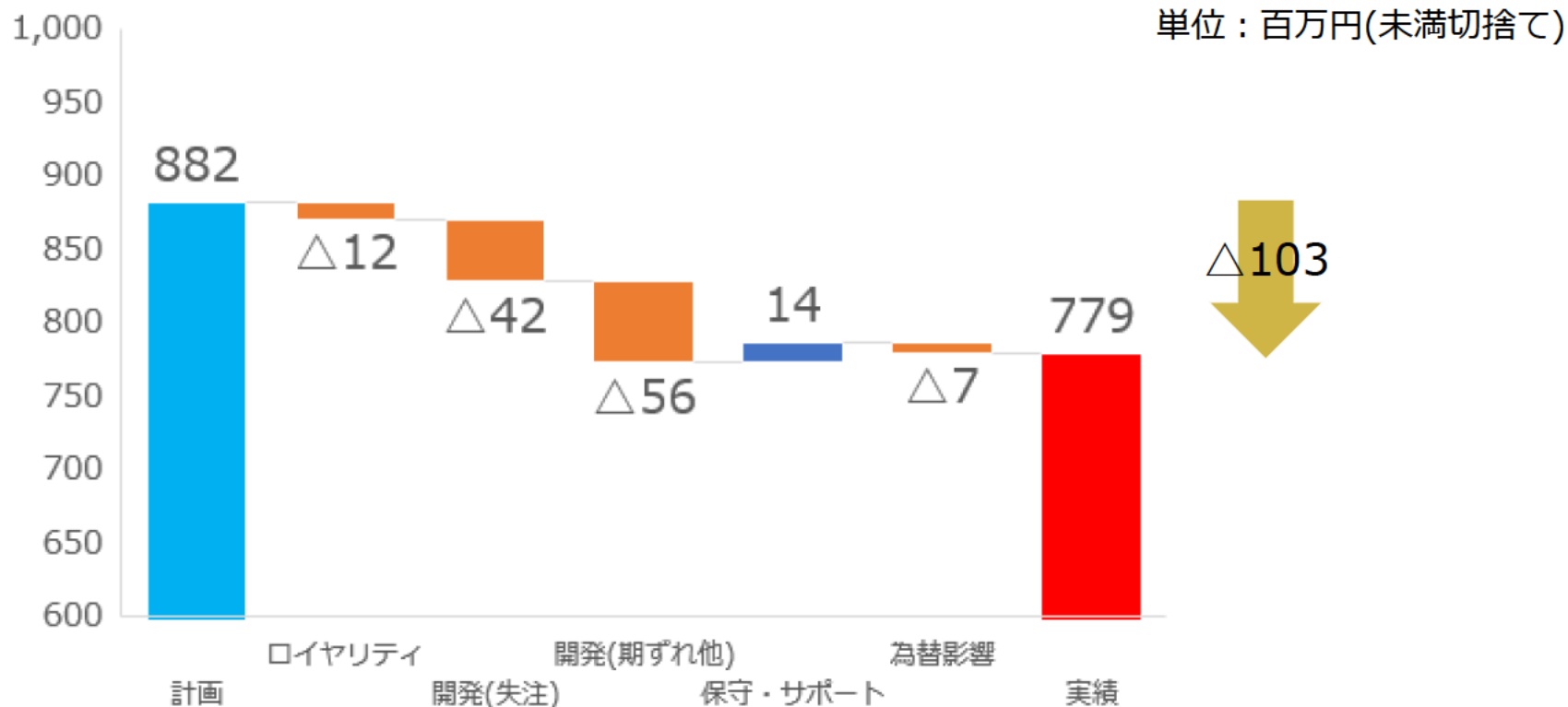
#### (ロイヤリティ収入)

当社ソフトウェア搭載機器の出荷台数が前年同期を下回ったことで43百万円減少。

#### (開発収入)

前年同期の大きな開発案件（子会社・タオソフトウェア）の反動減等で22百万円減少。

## 4. 連結売上高増減要因（計画比）



### (ロイヤリティ収入)

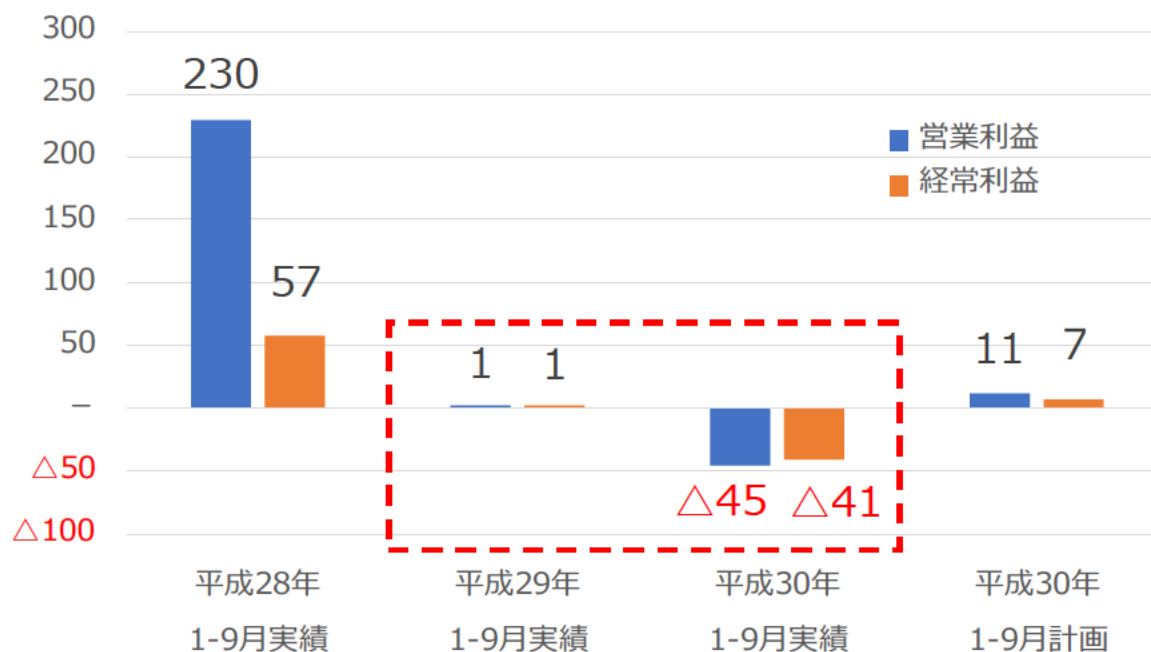
- 第3四半期（平成30年7-9月）の当社ソフトウェア搭載機器の出荷数は想定を若干上回ったが、第2四半期（平成30年1-6月）までの出荷数の下振れの影響が残り、累計では計画比12百万円減少。

### (開発収入)

- 見込んでいた案件を受注できなかった影響42百万円や期ずれ等で、計画比98百万円減少。

## 5. 連結営業利益・連結経常利益推移（前年同期比）

単位：百万円(未満切捨て)



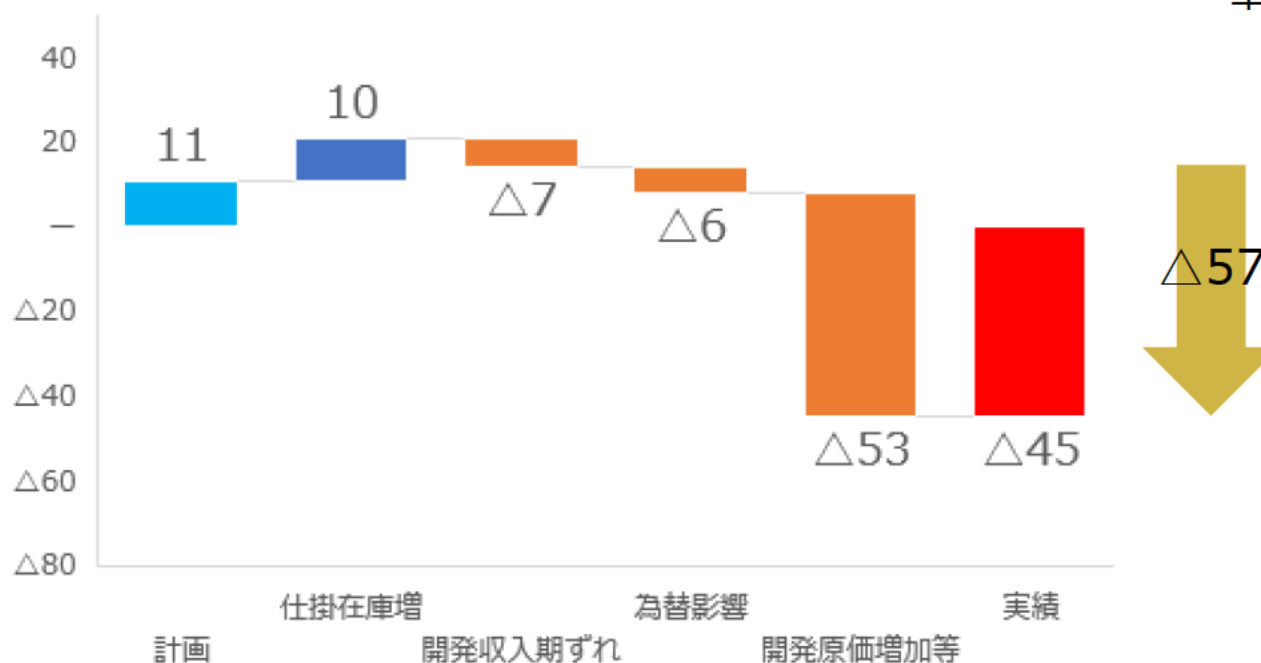
連結営業利益	<b>230</b>	<b>1</b>	<b>△45</b>	<b>11</b>
連結経常利益	<b>57</b>	<b>1</b>	<b>△41</b>	<b>7</b>

### （営業利益・経常利益）

売上高の減少に加え、一部の開発案件で開発工数が想定を上回ったことにより、売上原価がかさんだ結果、売上総利益が前年同期比で63百万円減少した。のれん償却費負担減少等により、販管費は前年同期比で若干減少したが、売上総利益の減少を補うことはできず、45百万円の営業損失と41百万円の経常損失を計上した。

## 6. 連結営業利益増減要因（計画比）

単位：百万円(未満切捨て)



開発工数が想定を上回った開発案件が複数生じ、さらに、初期開発の案件では粗利益が赤字になった案件も生じたことなどで、開発原価が計画を上回ったことで、売上総利益が大幅な落ち込みとなり、営業利益は計画を57百万円下回った。

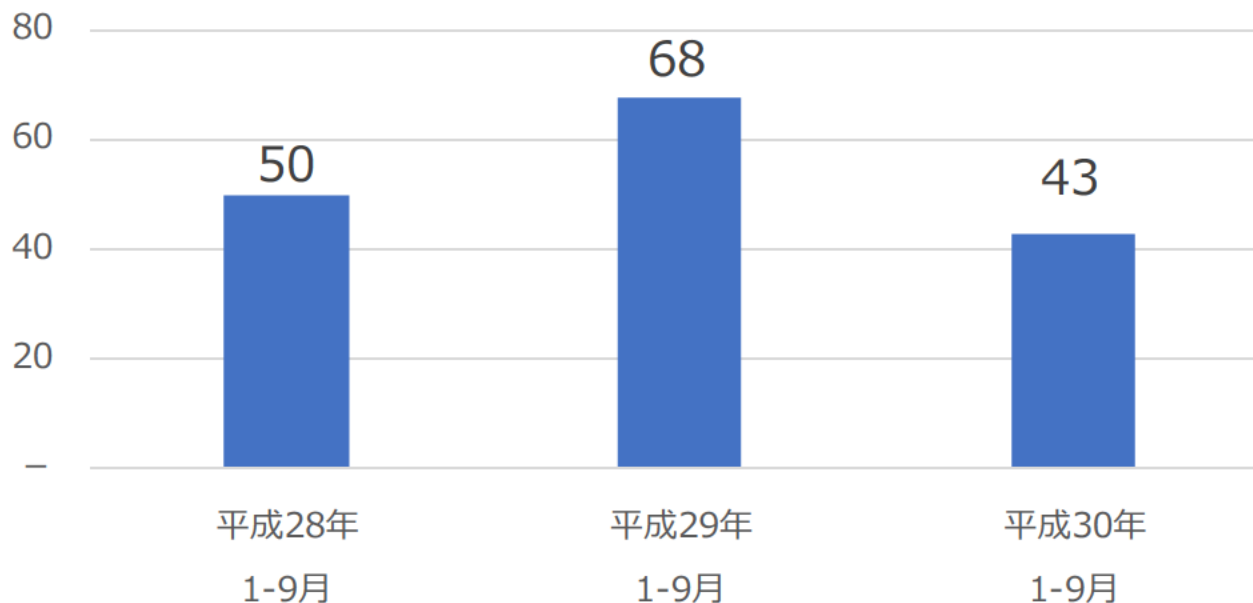
(注) 開発収入期ずれによる影響額は、開発完了が当第3四半期であると見込んでいたが、第4四半期へとずれた案件で見込まれる利益を概算の原価率をもとに算定した数値になります。

仕掛在庫増加による影響額は、上記開発収入期ずれによる仕掛在庫増加を除いて算定しています。



## 7. 研究開発費推移

単位：百万円(未満切捨て)



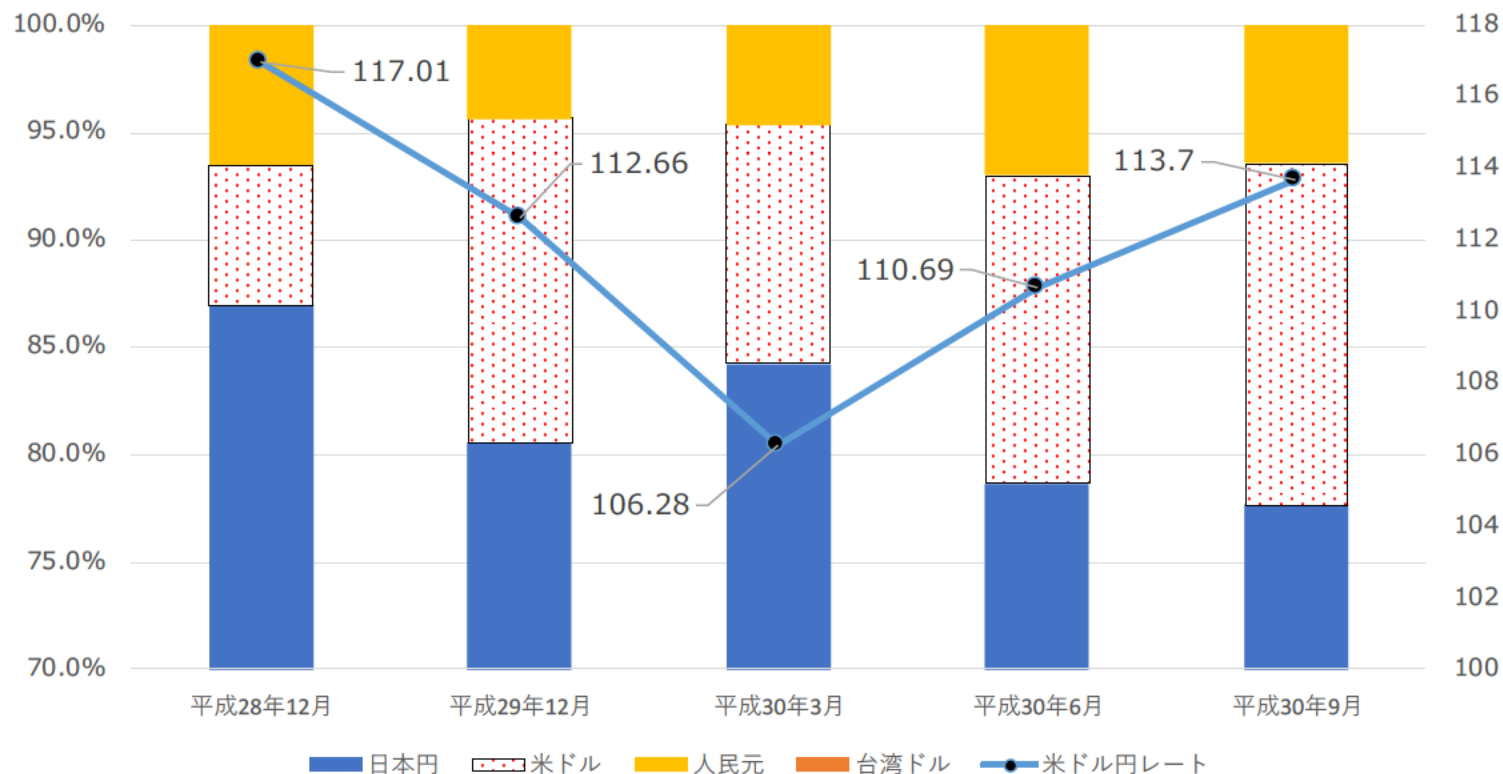
研究開発の主な対象は、前第2四半期（平成29年6月）まではVR関連製品であったが、前第3四半期（平成29年7月）以降に、AI関連とブラウザ関連の比重が増し、研究開発費全体が増加していた。

当期の研究開発費が前年同期を下回ったのは、当第3四半期（平成30年7月）以降、AI関連とブラウザ関連での受注確定が増え、研究開発費の対象となる内部開発人件費が減少したことで、研究開発費全体の伸びが抑制されたことによる。

(注) 当社の研究開発費は、受注決定前までの先行開発期間にかかる内部開発人件費を主としています。そのため、研究開発費の水準の評価にあたっては、受注済案件への開発リソース配分を増やすと、研究開発費は減少する傾向にある点にご留意ください。

# 8. 通貨別預金残高

単位：百万円(未満切捨て)



現預金合計	1,364		1,218		1,207		1,222		1,149
-------	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------

平成30年9月末時点の現預金残高は、米国の子会社での預り金を返金した影響があり、前年末に比べ、減少した。

## 9. 平成30年12月期通期業績予想

単位:百万円未満切捨て

(参考)

	平成28年	平成29年	平成30年	前期比		平成30年 12月期 前回予想
	12月期 実績	12月期 実績	12月期 今回予想			
売上高	1,282	1,056	990	△65	△6.2%	1,134
売上原価	618	543	566	22	4.2%	567
売上原価率	48.2%	51.4%	57.1%	5.7%p		50.1%
売上総利益	664	513	424	△88	△17.2%	566
販管費	488	573	538	△35	△6.1%	548
営業利益	175	△60	△113	△53		18
営業利益率	13.7%	△5.8%	△11.5%	△5.7%p		1.6%
営業外収益	3	2	5	2	73.4%	—
営業外費用	140	4	1	△2	△69.5%	4
経常利益	38	△61	△110	△48		14
特別利益	—	—	—	—		—
特別損失	1	44	0	△44	△99.8%	—
税金等調整前四半期純利益	36	△106	△110	△3		14
法人税等	40	35	△4	△40	△112.2%	7
非支配株主に帰属する四半期純利益	△0	—	—	—		—
親会社株主に帰属する四半期純利益	△3	△142	△105	36		6

第3四半期（平成30年1月～9月）で赤字を計上した結果と、第4四半期での受注・開発状況を検討し、平成31年に期ずれする開発案件も見込まれることを勘案し、平成30年12月期通期の業績予想を修正しました。

本資料は、株式会社sMedio（以下、「当社」といいます。）の決算情報の説明のために作成されたものであります。

本資料に記載されている計画や見通し、将来展望などは、本資料作成時点において入手可能な情報に基づき、当社が合理的と考えるものであります。が、これらには、様々なリスクや不確実性が内在しています。

様々なリスクや不確実性には、既知のものもあれば、未知のものもあり、当社が発表している計画や見通し、将来展望、将来の業績などが、実際の業績などと異なる結果となる可能性があり、当社として、それらの実現を保証するものではありません。